



ネイチャーなら

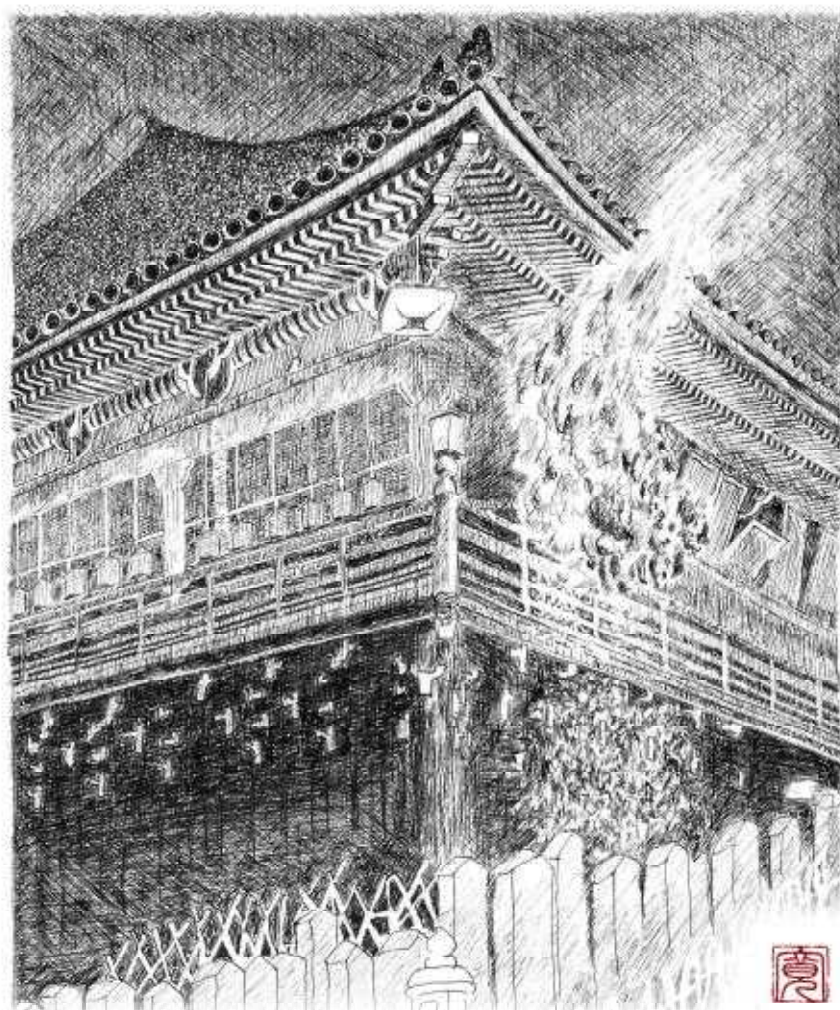
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年2月1日

2月号・第133号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



§ § § § §

Contents

§ § § § §

リレー随筆・お元気ですか！……………	①	Galleryならやま……………	⑪
会の名称・ロゴマークの由来……………	②	自然俳句……………	⑫
新春初出会＆京大生来訪……………	③	癒しの散歩道＆ならやま茶論……………	⑬
Monthly Repo.ならやま……………	④	青垣春秋……………	⑭
ならやま家の冬のある日……………	⑤	会報誌・HPアンケート集約……………	⑮
里山の今……………	⑥⑦	ならやま景観整備＆情報BOX……………	⑯
やさしい昆虫講座……………	⑧	行事案内(例会予告)……………	⑰⑱
鳥シリーズ＆地域情報……………	⑨	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記…	⑲
美味旬感・奈良学クイズ……………	⑩	*****	



「古墳巡り」余談

小森清道

趣味と健康をかねて古墳時代と呼ばれる時期に作られた天皇の前方後円墳を訪ね歩いている事を会報で紹介し早や2年が経過した。

初めの意気込みからは既に目標の40陵を訪ね終わっている時期のはずだが、正直まだ幾つか残している。理由としてこの間少し体を壊した事もあるが、多くは祭られている天皇の事績や歴史的背景などについて無知なことが多く、このまま霊山の静謐さのみに心打たれて陵前にただ佇むだけでは被葬者に失礼に当たるのでは、と言う反省が働いたことが大きい。

目下「日本書紀」の解説書などを讀んだり、当会の「歴史・文化クラブ」に参加したりと付け刃的に勉強らしきことをしているが、一日も早く自分なりの「古墳巡り」に再チャレンジしたいと思っている。

「古墳」は歴史のタイムカプセルでもある。

楽しみながら 自然美化のお手伝い 太田和則

入会し2ヶ月あまり経ちました。緑があり菜園などがあると聞き、有り余る時間の有効な使い方を模索していましたので、誘いを受けた会員のかたに会の資料を頂き、早速下見に出かけならやま地区を見て回りました。

そこで気づいた事は、以前は車の通行できる山道の、特に両脇の笹の中にいろんなゴミが捨てられており、これが古都奈良の現状かと愕然としたものです。

今回久しぶりに歩いてみると驚くほど整備され、大変綺麗になっていてビックリ、コナラの落ち葉をサクサクと踏みしめながら気持ちよく下見の散歩を楽しみました。ただし、歴史の道（ドリームランド周辺の山道）は残念ながら現在も変わっていません。

入会してから、とにかくいろんなことを体験してみようと思い、竹林の整理伐採、山林伐採、竹藪の伐採と体験しました。特に竹林の伐採作

主として歴史考古学者から古墳の学術調査として天皇陵への立ち入りや発掘が求められているが、管理主管の宮内庁の対応は柔軟ではない。学者は歴史文化の観点から調査・公開を迫っているのに対し、宮内庁はあくまで「お墓」であると言う宗教的側面を盾にして拒んでいる風でもある。それに付けても高松塚古墳やキトラ古墳の文化庁による発掘・公開は、結果として極めて拙速であったという外無い。

ある著名な考古学者は、陵墓の発掘調査はその準備からトレーニング、本調査そして復元と全部で30～40年くらいかけてやる覚悟が必要、でなければ必ず遺跡の破壊につながり、それなら今のままの方がはるかにいい・・・と。

古代の王家の成り立ちや、国と国との民族や文化の交流の歴史的・顕示的現代版玉手箱を如何に慎重に且つ宗教的尊崇の念を持って開けることが出来るかが今問われている。

いつの日か御陵の前に佇む者に厳かな声が風に乗って聞こえてくることだろう。「見るがいい。知るがいい」と。

業は、ノコギリでひくザクザクと歯切れの良い音が、大変ストレスの発散になり大いに満足です。菜園その他にもそのうち体験したいと思っていますが、「明るく、楽しく、やりたい事を無理をせずにやりましょう」という会の思想が心地よく、出来るだけ永く続けられたらな～と思っております。

作業することで環境が目に見えて綺麗になる、やった事がすぐ答えが出る、単純でわかりやすい大変気持ちのよい体験です。また、毎週弁当を持参し自然の中で食べる楽しさは、最近ではなかなか味わえません。側には焚き火が勢いよく燃え、毎回豚汁が振る舞われる.....旨い。毎木曜日を心待ちしている自分に気づきます。また器を忘れても竹をザクザク切って～即席の竹椀でたべる豚汁やコーヒの旨さが～” 堪りません”。

結果、世界遺産をとりまく環境を”楽しみながら”、ほんの少し自然美化のお手伝いができることに、多いに意義を感じております。どうぞよろしくお願い致します。

ホップ・STEP・ジャンプ ねな310年へ

奈良・人と自然の会

草創期から充実発展期へと着実に歩を進めている「奈良・人と自然の会」。呱呱の声を挙げて以来、早11年が経過しました。今一度創設時を振り返ってみることにしました。

初代会長・現顧問の川井秀夫さん、ロゴマークの発案者である寺田正博さんに、懐旧談をお聞きしました。

◆「会の名称について」の川井秀夫顧問談。

当会の設立から、今年の秋には12年の歳月を数えることになります。少し記憶も薄らいでおりますが、会のネーミングは助走期間の発起人会で、いち早く決定いたしました。略称も「ネイチャー奈良」が採択されたと記憶しております。

幾つかの提示がありましたが、初代事務局長谷口曉氏の提出された「奈良・人と自然の会」が満場一致で選定され、今日に至っております。

当時、私はシニア自然大学校の環境科の代表として活動しており、地球環境問題を勉強しておりました。まず、この会名に違和感を持ったのは、何故人と自然を敢えて分離して考えるのかと。何故ならば人も自然の一部であり、傲慢な心無き人間が自然破壊に手を染め、商業主義に走る現実を見聞するにつけ、抵抗を感じたものです。

しかし当会が採択したネームであり、我々の真の理念を確立しておく必要があると思い、次のように考えました。

人は他の生物と違って大脳機能が発達し、生産力・創造力・言語力・判断力・理性、感性などが備わり、今日の文明が創出されてきました。

しかし良く考えてみると、その全てが大自然から享受したものが根底にあることは否定できません。

また、人は縄文期の太古から自然を崇拝してきました。進化した現代においては謙虚に「自然との共生」というキーワードが定着しておりますが、もっと積極的に「自然との共進」と考えました。間伐による森林の更正、景観の修復、荒地の肥沃化、歴史・文化からの教訓、そして子供達への偉大なる自然の啓発活動など、我々の英知と行動力によって、自然と共に進化する集団活動を会是として、名に恥じない展開を持続発展に繋いで行きたいと思ひます。

会名の真の理念をご理解いただければ幸いです。当会も創立10周年を刻み、たゆまざる前進を続けておりますが、時代も変化します。斬新な発展的なご意見があればお寄せください。

◆「ロゴマークについて」の寺田正博氏談。



会設立後暫くして会旗作成の声が挙がり、全会員にデザイン募集がなされました。数点の応募があり、総会の席上、出席者全員の投票により決定されました。その結果、私（寺田正博さん）がデザインしたものが最多得票を得て会旗に選定を受けました。

デザインの基本コンセプトを説明すると、ロゴマークは、Nature Naraの頭文字NNを半円形にデザインし、中にいつも若々しく初心を忘れずに育つようにとの気持ちを込めて、若葉マークを配置しました。

旗の色は、「^{あおによし}青丹吉 ^{ならのみやこは}寧楽乃京師者 ^{さくはなの}咲花乃…」と万葉集にある奈良の枕詞「あおによし」より「あを（緑、青丹色）」にし、文字色は「丹色（やや黄味かがった赤色）（真心の意）」を選びました。詳細については、色辞典等の資料を総合判断して、会旗の色調を決めたと思ひしています。

いつまでも大切にしてください。

新春初出会



今冬一番の厳しい寒気団が列島を覆い、最高気温 7℃という天候にもかかわらず、過去最多の 63 名（会員 58 名+ビジター 5 名）が参加して、2013 年の活動がスタートした。午前 11 時すぎまでは、第 5 地区の笹藪の刈り払い機による除去作業グループと餅つき&七草粥準備グループに分かれて作業を実施した。

春の七草の内、すずな以外の 6 種類全てならやまで採取。来年は、すずなの植え付けをして完全に「ならやま産」（地産地消）でと思っている。

正月の一大イベントといえば「餅つき」がある。餅つきの由来は、元旦に家を訪れる「年神」を祀り、新しい年の幸福を祈るという意味を持っているそうだ。10 時半ごろから 4 升の餅米を蒸しかけたところ、熱効率の良さで予定の時間よりも少し早めに蒸し上がり、搗き手と介添役の方々の手つきの良さに感心しつつ、一搗きごとに「よいしょ」のかけ声がかかる。搗き手役が交代しながら、みるみるうちにきれいなお餅が搗き上がる。側で待機していた 6～7 人でお餅を丸めてきな粉を塗すと、見るからに風味豊かで美味しいきな粉餅が大量にできあがっていった。

一方、七草粥は、春の七草に 1 升 2 合のお米を入れて、大鍋満杯に炊きあがった。

正午すぎに藤田会長の挨拶に続いて、会員の皆さんやご家族の方々の無病息災を祈願し、阿部顧問のご発声による乾杯でスタート。用意した「きな粉餅」と「七草粥」、西谷さんお手製の「巻き寿司」、池田さんが丹精込められた「甘酒」など全員で賞味し見事に完食。約 1 時間余りで中締めとした。年々初出会も充実したものになっていく。販売部長の吉村さつきさんの発案で、全員に福袋（ならやま産各種大根などの詰め合わせ）も用意でき、お持ち帰りいただくことにした。

さて次回は、子どもさんやお孫さんたちを交えて、ご家族で餅つきに参加してもらえようなこともと思ったりしている。（鈴木 記）

1
月
1
0
日



「里山の保全・整備活動を行う団体の研究」

京都大学工学部地球工学科景観設計学研究室 4 回生の湯川竜馬さんが、当会の活動のことを側聞され、現地視察を兼ねて来訪された。

京大生来訪!

研究調査の主な項目は

- ①活動のきっかけ
- ②リーダーや協力者の関係構造 について
- ③活動内容の広がり方と担い手となる方
- ④人のネットワークの広がり方とその具体的な人数の変移
- ⑤各作業に必要な動員人数と作業頻度、時期
- ⑥補助金制度の活用や行政の支援 等でした。

今日に至るまでの経緯等を、阿部顧問と古川前プロジェクトリーダーから説明をされた。

湯川さんは、「ボランティア団体として、ここまで規模が大きく、成長している団体はなかなかないと思います。特に印象的だったのが、ならやまのフィールドでの活動が、周辺地域の皆さんや、小学校・牧場・造園業の方などを巻き込み大きくなっていくところです。ボランティア団体の、まさに理想的な活動の展開だと感じました。大変よい勉強になりました。ありがとうございました。」とのコメントを寄せられた。一昨年来、国土緑化推進機構会長賞・環境大臣賞・奈良県知事表彰と立て続けに受賞できました。社会的に認知されつつあることであります。それは、一段落ではなく「さらに充実した活動を期待している」という激励であったのでしょうか。奈良県の自然を『より良い状態で次の世代に引き継ぐ』というコンセプトを持ち、更なる努力をしていかなければと思っています。

（阿部 記）



Monthly Repo. ならやま

◆12月27日(木) 曇り 47名+4名

本年最後の活動日につき、午前中で活動は終わり。

コナラの落葉が激しく水路にも落ち葉がいっぱいたまり、水の流れを完全に堰き止めていた箇所もあった。か弱き？女性も長靴で水路内に入り、落ち葉の掻きだしを行った結果水の流れもよくなった。

里山グループは皆伐地区での伐採木の玉切りと薪割り機による小割り作業。農園グループはエンドウのつる誘引を壊すのを楽しみにしているカラスの先手を打って予防対策を始めた。土作りのための堆肥の切り替えしも実施。景観グループは第5地区での笹刈りを行ったが、かなり難物で人海戦術が必要とのことであった。花関係ではムラサキハナナの植え替え、ハマユウの霜避けなどが行われた。

池田さんから譲っていただいたテント・流し台の引き取りをした。

◆1月10日(木) 曇り 58名+3名

本年最初の作業始めであったが、作業が山積みになっていることから終日活動。

午前中の活動は早めに終え、11時半から餅つきを開始。4升の餅をついて、きなこ餅にした。つくたての餅は粘りもあり、美味しく完食。また、女性メンバーが畑を見て回って集めてくれた食材の七草粥も大鍋いっぱいあったがこれも見事に完食。その他漬物各種、甘酒、巻き寿司、アンパンなどの差し入れも美味しくいただき満腹。お屠蘇は少々で形だけであったがよい初出であった。

午後もし引き続き第5地区の笹刈りの一斉作業。背丈の倍ほどある笹を刈取る作業は大変な作業であったが、



人海戦術の成果でかなり作業が進んだ。感謝！感謝！

森林技術センターから研究者が2名来られ、昨年度の皆伐地区での萌芽調査を実施。



◆1月15日(火) 晴れ 2名+3名

たなご池の泥さらえのため、近畿大学へ里帰りしていたバラタナゴが戻ってきた。

◆1月17日(木) 曇り 51名+4名

先週に引き続き第5地区での笹刈りとスギの整理を一斉作業で実施した。

シニア自然大学校水生生物科のならやま池での水生生物調査が行われ、いろいろの生き物が確認され、バラタナゴも2尾見つかった。

農園ではエンドウの霜よけ、カラス対策の網が整備された。

ならやまパトロールも再開された。



調理台の脚が高くなって調理が楽になったと女性方が喜んでいた。(文責：木村 裕)

ならやま家の冬のある日

今日は木曜日、活動日。朝8時半頃から霜で白く凍てついた駐車場に車がつぎつぎにやってきます。ベースキャンプの片隅では早くも暖をとる焚き火が起こされ、長椅子がつぎつぎに並べられてゆきます。

車からは重たい水タンク（20リットル入り）が降ろされ、手のあいた者が炊事場へ運び込みを手伝っています。

一方チェンソー、刈り払い機なども倉庫から運び出され、機械の調整が始まります。到着したメンバーは参加者名簿に順次名前を記入します。この名簿は活動保険の対象名簿となり、昼の味噌汁・配給物の人数確認にも使われますのでパスすることは出来ません。

9時、全員朝礼が始まり、グループ毎に今日の活動内容の確認が行われ、とくに人手がいる活動については人手募集が行われます。最後に準備体操をして、体の筋肉をほぐし、怪我防止につなげます。

朝礼が終わると、グループ毎に必要な機材をたずさえて現場に散らばってゆきます。里山グループは大きなコナラの伐採に取り組み、専門的な技量のあるメンバーがチェンソーで切ると、一抱えもあるような大木がドサッ！と地響きをたてて倒れます。ついに残ったメンバーは鯨の解体よろしく枝葉を切り刻んでいきます。



農園グループはサトイモやダイコンの収穫作業、ホークを振り回して春野菜の栽培に向けて堆肥の切り返し、畑への投入を進めています。その横では暖かい堆肥の中から放り出されたカブトムシのお子様が震えています。可哀想！



一方、女性メンバーの一個連隊がカゴを下げてシイタケの収穫に山に入ってゆくのが見られます。初秋から美味しいシイタケが毎回沢山収穫され、ナメコも採れているようです。景観グループはジャングルを開墾するごとく人の背丈よりも高い笹林に挑み、刈り取っています。池では氷の張った冷たい水の中に入り、水質調査や生物調査をしているのを見て、池の中のエビやザリガニが呆れています。花壇では春の花畑を期待して霜よけ、草取りなどが進められています。



ベースキャンプでは女性メンバーが畑で収穫したならやま特産有機野菜をメインにした豚汁つくりを進めています。また、今朝収穫したダイコン、サトイモ、シイタケなども仕分けられ、昼の休憩時間に販売されます。この新鮮な野菜は一山100円で、ならやま基金となり、次の種苗、肥料の購入などにあてられています。しかし、のんびりしていると欲しい物がなくなってしまう。

12時前になると、散らばっていたメンバーが三々五々戻って来て、楽しい昼飯時間となります。具沢山の暖かい豚汁は腹の底から暖まります。さらに漬物や食後のデザート差し入れもしばしばあります。

昼食後、グループ毎に語らって現場に戻ってゆきます。当会ご自慢の薪割り機も登場し、操作性がよいので女性方のよいおもちゃになっています。

2時半過ぎになると、ぼつぼつベースキャンプに戻って来て道具類の後始末に入り、活動を終えた者から、暖かいコーヒー（インスタントではあるが）をゆっくりといただきます。一日の活動を終え、満足感のある至福の時がおとずれます。みな顔もにこやかにほころんでいます。

3時、今日の作業を振り返って活動は終り。

（ならやまの主）



ならやま花だより

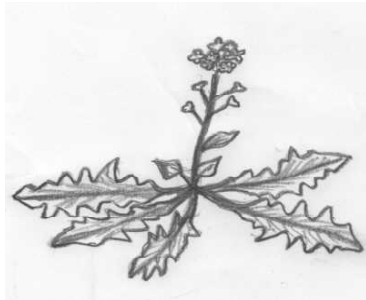
吉村さつき

1月10日 里山の落ち葉を踏みしめるとふわふわと心地よい気分になります。西側の里山の入口にヤマコウバシが一本あります。枯れた葉が何時までも枝に残っています。この木には落葉するまで借金の返済を待ってもらい一生懸命働いて返済した親孝行の話や、受験生に「落ちない」と掛けて合格祈願に葉を贈ると喜ばれるという話等があります。

草花は暖くなるのをじっと待っているようです。七草の一つナズナ（アブラナ科）が可愛い花をつけています。根際はロゼット状で羽状に深く裂け有柄です。別名ペンペン草や三味線草と呼ばれています。子供の頃果実を茎から離してでんでん太鼓の様に回しシャラシャラと鳴らしてよく遊びました。



ナズナ



- [草花] ナズナ、ハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、オランダミミナグサ
- [木の蕾] ジンチョウゲ、ヒサカキ、アセビ
- [木の実] ソヨゴ、ヒサカキ、ヤブコウジ、マンリョウ、フユイチゴ
- [花壇] パンジー、スイセン

ペタキン日記 ⑨

羽尻 嵩

1月15日(土) この日、近大研究室で健康診断を受けに行っていたペタキンとタガイ、シマヒレヨ

シノボリたちが、保護池に入れられていたペタキンなどと一緒にタナゴ池に里帰りをした。

久しぶりに会った親兄弟姉妹、仲間たちの話し声が聞こえてきました。

A(近大組)：僕たちは、少し狭かったけど、水も草もきれいで明るい部屋に入れてもらっていたんだ。三食昼寝つきで快適だったよ。君らはどんなところで過ごしてたんだ。なんか、僕たちより大きくなったみたいだな。

B(保護池組)：私たちは、これまでとあまり変わらない部屋にいたわ。初めは広くて何もない部屋だったけど、いつの間にか枯葉や枯草・笹竹なんかいっぱい入れてもらったの。それで外が凍てついた日でもその間にいると温かいし、だれにも邪魔されなくて安心して過ごせたわ。食事もこれまで通りできたわ。だからこんなに元気なの。

C(近大組)：私たちの部屋は明るかったけど、あまりプライバシーが守りにくかったの。また、時々窓の外から人間たちがのぞいたりするの。そんな時はほんとにドキドキしたわ。だって、私の友達なんか網ですくわれてどっかに連れて行かれたのよ。帰ってきたときはグッタリしてたわ。

D(保護池組)：ヘエ〜、俺もそんな冒険みたいな経験してみたいな。

母(近大組)：まあ、それぞれいろいろあっただろうけど、家族も増えて、またここでみんな一緒に暮らせるんだよ。ありがたいことだ。めでたいことだ。



近大組



保護池組

★アケビコノハ★

菊川年明

昨年11月22日の活動日、数人の方から大きなガを前にして「このガの名前は？」というお尋ねがありました。ベースキャンプ西の里山の入り口付近にいたそうです。そのガの上翅は暗褐色の枯葉模様、下翅は鮮やかなオレンジ色の地に大きな黒い目玉模様です。

ならやまではめったに見られないがアケビコノハというガです。幼虫の食草がアケビ（近縁種を含む）であること、「コノハ」は木の葉模様ということで、このような名前が付いています。

アケビコノハは通常は屋根のように羽を閉じて止まっていますので、オレンジ色の下翅は隠れていて、落ち葉の中などで静止していると全く目につきません。先にならやまではめったに見られないと書きましたが、このガは夜行性で、昼間は木の枝先や枯れ葉の上などでじっとしていますから、目につかないだけということかもしれません。

静止しているときは翅を閉じて枯葉そっくりに擬態していますが、野鳥などに見つかって襲われそうになるとぱっと翅を開き、下翅の鮮やかな目玉模様を見せて、敵を驚かせるそうです。幼虫も、とても奇抜な目玉模様を持ったイモムシです。別の機会に詳しくご紹介したいと思っています。

成虫は桃やブドウなど果実の汁を吸うので果樹農家にとっては困り者になっています。

また、このガは成虫で越冬する数少ないガの一種でもあります。(写真は当日のもの)



(案内板の写真、製作中と設置例)

★ならやまパトロール隊★

小島武雄

11月から、パトロール隊に参加して、ならやま自然観察路の4コースを歩きました。活動目的は、まず観察路の整備状況のチェック・報告、次に希少生物の保護、そして季節の観察路の様子を紹介です。メンバー15名のコース下見会は、ならやま景観保護活動をしてからの午後のスタートでしたが、皆さん健脚で、急坂道をスイスイと登って行かれます。山に入ると道は何とか分かりますが、目印やピークがなく何処を歩いているのかも判らなくなります。そこでまず曲がり角に標識の設置にかかります。矢印はどちらに向けるのか、コースの各ポイント、ピークや谷の名称も考えなくてははいけません。倒木の撤去や、あぶないがけ道を避けたり、壊れた階段も自然環境をこわさず作り直します。ただし、ならやまの森はそのままに、人の手を出来るだけ加えない事を忘れずに。

森の中には、コ克蘭の保護力所が沢山見られますが、とても小さな葉の周りを木の枝を地面に立て囲ってあるだけで、油断していると見過ごしたり、踏みつけたりしそうです。何かいい保護柵を考えなければいけません。草木も希少種やヌスビトハギなどの在来種が残っていたりして、大事に保護が必要です。冬枯れの里山林は、日射しがよく入り木肌や木の実、冬芽の観察はしやすい様子ですが残念なことに、私には、その違いがよく判りません。

今の季節は、多くが落葉しているので、美しいアオキの常緑樹、ヒサカキもよく目立ちます。

赤い実がヤブコウジで十両、カラタチバナが百両、他に一両、千両もあるようで、花と実の数それぞれが楽しみです。

ヤマコウバシの葉、シャシャンボの黒い実や、ガマズミと紅葉ウルシの美しさを教えてもらいました。また、見つけた野鳥や、小動物の発見も記録していきたいと思っています。

ここで見た感動を、優しく案内するのが、パトロール隊の役割だと納得。これからの、ならやま観察は、春の芽吹き、新緑、開花、秋の色づき、冬越しへの変化が楽しみです。新米パトロール隊員ですが、ならやま観察路の、微妙な変化に気がつく様に、毎週歩いてみたいと思います。

やさしい昆虫講座②8**木村 裕****見えているのは仮の姿**

長い口ばしで植物の汁を吸う三羽ガラス、アブラムシ・カメムシ・カイガラムシはいずれもお百姓さんや園芸愛好家から嫌われています。この3番目のカイガラムシは地味であり目立たないのですが、こっそりと悪さをします。幹や枝、ときには葉にいっぱい付着していてもまったく動かないので害虫と思われず見過ごされることが多いようです。カイガラムシは漢字で書くと、介殻虫、外観がカキやハマグリのような形をしていることからこの呼び名がついたのでしょう。しかし、形は千差万別で、想像もつかないような形をしている珍奇なものもあります。

皆さんに最も身近なカイガラムシは植木に寄生するロウムシ類です。ツバキ、ゲッケイジュ、モチノキ、マサキなどの枝に直径5ミリ前後、白色、ロウの塊が花が咲いたように並んで付着しています。とくに車の通行の多い道路に面した垣根や街路樹でよく見られます。ロウを指で押しつぶすと赤い汁がでて不快です。また、この虫が住み着いている樹の葉や枝は黒く汚れているのが特徴です。煤病を誘発するからです。白色でなく、赤褐色～チョコレート色のロウが枝にぎっしりと付着することもあります。色や形が宝石のルビーによく似ていることから、ルビーロウムシと呼ばれます。

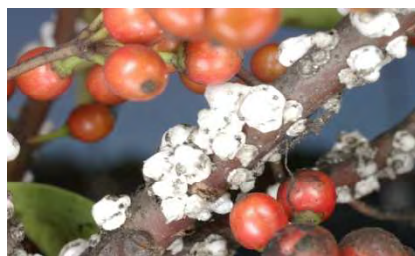
ミカンの果実の表面に寄生するヤノネカイガラムシも有名です。無農薬栽培のミカンでよく発生し、果実の表面に矢尻形、紫色の小さなかさぶた状の物が付着していて、指でこすると簡単に剥がれ落ちます。赤褐色の丸い玉状のタマカタカイガラムシもよく見られます。ならやまのウメの木でも2年ほど前に枝にぎっしりと寄生していましたが、テントウムシの襲撃を受けて気の毒にも全滅したようです。

サルスベリの枝や幹に白色の俵状の物がいっぱいつくことがあります。これはサルスベリフクロカイガラムシで、煤病を伴い葉は黒く汚れます。

サルスベリではアブラムシが発生しても黒く汚れます。皆さんが見ているロウの塊や貝殻は虫本体ではありません。これは仮の姿で、虫が外敵や雨風から自分の体を保護するために体の表面から分泌した物です。真の虫本体はこの被覆物の下に潜んでいます。

オス成虫は羽根があってふらふらと飛び回って浮気をしていますが、メス成虫はじっとお家（被覆物）を守り、決して自分から外へとび出すことはありません。それゆえ羽根はなく、足も退化していて歩くことも出来ません。交尾したメスは殻の下で数百個の卵を産みます。卵から孵化した幼虫は「お世話になりました」と言って親の殻から這い出してクモの子を散らすように四方へ散ってゆき、何処か気に入った場所を見つけると腰を落ちて着けて汁を吸い始めます。栄養豊かな餌場を確保したことから足は退化し始め、ふたたび移動することはありません。メスになる幼虫はほとんど姿を変えずに成虫となりますが、オスとなる幼虫は蛹となり、ハエのような成虫となり、若い女性を求めて飛び去ってゆきます。

一般的にカイガラムシは寒がりやのようで、小さな幼虫は寒い冬を越せません。それゆえほとんどの種類は成虫の状態で越冬し、春に卵を産みます。またいつも殻の下に潜んでいるので防除の難しい害虫のひとつです。



鳥シリーズ 小田久美子

地域情報2月号

2月は探鳥会(檀原神宮)

1/15、勝田さんと下見に行きました。カモはヒドリガモ・マガモ・ホシハジロ・ハシビロガモ・キンクロハジロと少なかったです。ビギナーさんのためにいくつかのポイントを書いておきますので、観察前の予習にお使い下さい。

マガモ→あなたには何色見えますか

(1月のホームページの鳥)

ヒドリガモ→茶髪のもヒカンはおス?

ハシビロガモ→重そうな嘴で何を食べる?

キンクロハジロ→金・黒・シロ?そのまんま

ホシハジロ→目の色は同じ?

檀原神宮冬季は、タカ類、サギ類、カモなどの水鳥、シロハラ・ビンズイ・ルリビタキなどの小鳥、常連のイカル・イソヒヨドリ・カワセミ、ちょっとレアなアオバト・ニュウナイスズメ、オジロビタキ、ちょうレアなイワミセキレイなど延べ60種近くが見られていますが、皆さんの鳥運そしてお天気運は如何でしょうか?



「ヒドリガモ雌雄」 深田池・田中撮影

【鳥情報】

「ヒレンジャクが桜井(12月)と新薬師寺(暮れから新年)で多く目撃されました。小田」

【斑鳩】 12月7日から神南の大木に、毎日来ていたイカルが、12月26日からばたっと来なくなりました。みんな楽しみに見に来てくれたのに・・・1月に入ってから来てくれませんが、シメ(イカルの仲間)2~4羽が毎日顔を見せてくれます。我が家の前の公園で鳴いていたり、竜田観音でほぼ毎日います。1度に4羽いたこともあります。昨年渡りが0だったシロハラは毎日姿を見ていますが、落ち葉をひっくり返している姿よりも、飛んでいるのをよく見ます。

カモでは大和川(竜田川との合流点)でのマガモの数が例年に比べ極端に少なく、見ない日の方が多いです。なんだか毎年飛来する鳥のことでおかしいなと思うことが多くなりました。野鳥の会のカモ調査の結果を待っています。その少ないカモの中で元気をくれているのがオカヨシガモです。最高13羽もいました。(勝田記)



オカヨシカモオス



私? 餌を採るオカヨシカモ

美味旬感

西谷範子



タネツケバナ

稲の種もみを水に着ける頃ですよ

アブラナ科のタネツケバナ属で十文字植物であるから、3～4mmの4弁の白い花を咲かせる。4～5月の稲の種もみを水に漬けて苗作りを始める頃に咲くので種漬花と呼ばれる。

春、耕す前の田を一面に白い花で被い、何の花かと近寄って見てタネツケバナの群生であるのを見ると、その可愛らしい優雅さに感嘆する。茎が伸びて花を咲かす前の今は、まだ葉は丸く土に広がっているが、水辺のものはもう柔らかい葉を立ち上がらせている。

田やあぜのほかに水辺や水分の多い所に生える。同じく水辺に群生するオランダガラシ（クレソン）に似ているが、それよりは小ぶりである。小川や山の溪流にはオオバタネツケバナがあり、この方がやわらかい。

株ごと採って、株元はかたいので切り落とし、生でサラダで食べる。他の野菜に混ぜてもよし、

トッピングにしてもよし、少し辛味がありシャキシャキ感がいい。刺身との取り合わせや、吸い物や、芯にしてベーコンなどで巻いてもいい。沢山採れたら塩を少し入れた湯でさっとゆでて水にとる。ほんのさっとだけにしないとシャキシャキ感が損なわれる。あくはないので長い間水に漬けておかない。濃い緑色で辛味はなくなっているの、かつお節をたっぷりかけておひたしに。和え物もなんでも合う。

葉をすりつぶしてできものに塗ったり、種や全草を乾燥させ煎じてむくみや咳止めに使った薬草でもある。

最近、水辺でなく乾燥した所にタネツケバナより早く咲くミチタネツケバナというのが繁殖している。タネツケバナは葉や茎に白い毛があり、花も大きく、果実がかぎ形に曲がって花より低くつくのに比べ、花も小さく、葉や茎に毛がない。果実が花より高くまっすぐ伸びているので分別できる。

奈良学クイズ



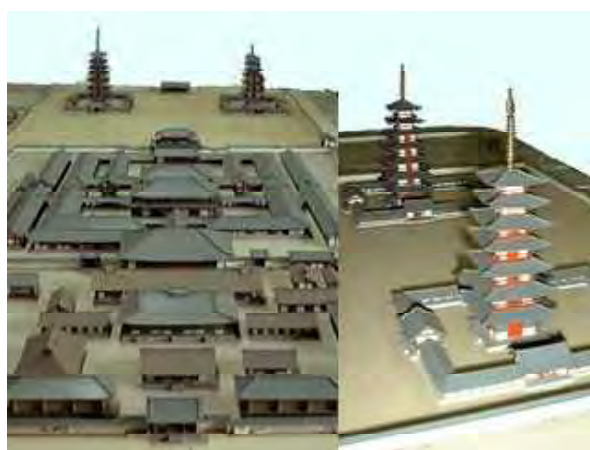
伽藍の造営を勾当した道慈律師は、大宝二年の遣唐船で入唐し、粟田真人や歌人として有名な山上憶良などが使節として同乗していました。

この遣唐使は、初めて南海路を取り、揚州から入唐したとされています。当時の中国では、則天武后が即位して、国を周と号していました。道慈は大使真人と共に武後に謁した可能性があります。その後、道慈は長安の西明寺に留まり16年間学びました。西明寺は迎賓館としての性格をもった名刹で、道慈はその伽藍を模して寺を作ったといわれています。

西明寺はインドの祇園精舎を模し、祇園精舎は兜卒天（弥勒菩薩の浄土）の内院を模したと伝えられており（今昔物語・扶桑略記）、後に寺に住した弘法大師空海は「是兜卒の構え、祇園精舎の業なり云々」とその壮麗さを賞賛しています。

南大門のさらに南側に東西の塔が建てられていたのが特徴的です。しかも、どちらも高さが約70mの「七重塔」。七重塔があったのは東大寺

と〇〇寺のみだったと言われています。では、〇〇寺の名称をお答えください。



◆正解の方に、赤米を進呈します。

◆応募方法は、メール（編集チーム・鈴木宛）でお願いします。

※応募締切は、2月5日です。

Gallery ならやま

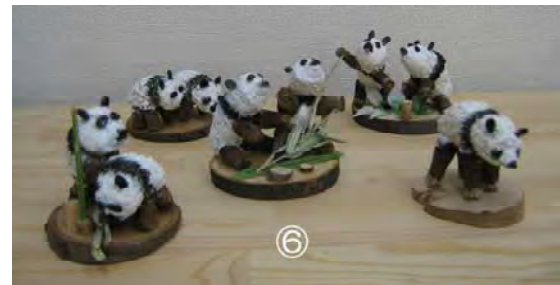
①～⑤

干支のペンダント (大澤教男)



⑥～⑨

自然木クラフト (田中克彦)



喜寿越えてまた一年の初日かな 古川祐司

喜寿を迎えてのお正月。初日を拝し、
新たな感慨が去来する。乾坤の一年で行きましょう。

ならやまの野菜を飾るお節かな 古川祐司

正月料理にならやま産の幸が並ぶ。
家族団欒、和やかな話題に花が咲く。

数え日の風に微笑む石仏 八木順一

暮れの例会。石仏の微笑が印象的。
「数え日」は年暮れの季語。

なら山にひと声高き御慶かな 八木順一

里山の初出。清々しい新年のご挨拶。
「御慶」は新年の挨拶を表す季語。

自然俳句

監修 川井秀夫



まつさらな空一枚の山始め 川井秀夫

空にも新年の表情を感じる。それは人間の精神性の問題。
さあ、心の洗濯をしてひと仕事始めるか。
下五を「鍛始め」とするのも良い。

おめでとうひと皮剥けて年を言祝ぐ

清々しい巳年の初春。蛇に倣らって脱皮の年にしますか。
新しい皮が出来る齡でもありませんが。

ほどの良き七草粥の熱さかな 川井秀夫

裏方のご苦労が沁みる。粥の加減も佳し。
今年も無事安寧を祈りたい。

寒林の竹笹を剪る機械音 川井秀夫

新天地。第五地区の整備作業捗る。
機械も負けるほどの笹の壁。総合力で効果観面。

癒しの散歩道

雪蛍

谷川 萬太郎

北国の無情な荒馬の嵐が
吐息が幾つもの輪になって
思えば去年の秋に別れた
優しかったあなたの後姿を
振り向けば定めに生きる

身体を吹き抜け凍えるせつない冬の朝
白煙が風波に溶われ雪原の彼方に消ゆる
舞い散る枯葉に虹色の涙を流した私は
胸に抱きしめて押し花を想いで形見に
白い冬木立よ 私は春を待てない雪蛍



肌に寒かる越冬つばめよ
春の夢を運ぶ幌馬車よ
季節の衣を脱ぎ捨てよ
眠る自然の温もり求めて
新雪の中で産声あげた

凍える前に暖かな人の心の灯に止まれ
幸せの花びら舞う明日はいずこの街へ
誰もいない海には何処よりも早く春が来る
人恋しい花咲く森に早く辿り着きたいから
可憐な雪中花よ 私は春を待てない雪蛍

ならやま 茶 論

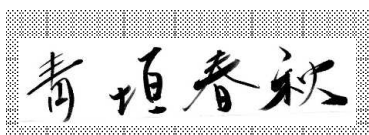
「光の慈愛」

竹本 雅昭

西門松：東さん、おめでとうございます。
東門松：おめでとう、朝日が気持ちいいね。
西：静か過ぎて、何か面白い話ないですかね。
東：昔、とんちで有名な一休さんの狂歌で「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」が良く知られているが、どうも冥土は暗いイメージが強いので好きじゃないね。できたら極楽とかお浄土と言ってほしかったな。
西：我々も人の背丈ほどに飾ってもらったけど短い命。正月だけに余計明るい所へ行きたいね。
東：まあ一休さんは禅宗だから心臓の方も強かったのかも知れんね。又蓮如さんに出された手紙に「くっちゃあね、くっちゃあね…」と同じ文句のくり返しで長々と、君なら返事をどう書くかね。

西：私なら「体に毒だから…」とか何とか。
東：ブーだね。実は「あれしてこれしてあれしてこれして…」と同じように長々と返事を出されたんだって。
西：へー、面白いやりとりだね。
東：自力と他力の宗教の違う二人の友情の厚さが感じとれるよ。
西：我々も人々にエールを送りましょ。
“いつまでも青春であれ”
～ 西門松 太陽に合掌 ～





歴史の渚を歩く
蘇我入鹿の実像を求めて

歴史文化クラブ
古川祐司

大和では、人々が歴史と隣り合わせで暮らしている。歴史文化クラブの活動で歴史にゆかりのある地を訪ねるたびに、その思いを深くする。

歴史の舞台には、多くの悲劇の人物が登場するが、歴史書は往々にして勝者を正当化して、英雄として事績を称える。しかし、敗者として歴史から抹消されても、心ある人達によって秘かに祀られ、伝承として語りつがれるものが少なくない。人々の心情にふれ、隠された歴史の一面を感じ取るのもなかなか興味深い。

「乙巳の変」では「蘇我入鹿」は、天皇家の篡奪を企てて滅ぼされた大悪人、一方の中大兄は、天皇家の危機を救い「大化改新」という政治改革を断行して律令国家へと導いたヒーローである。このように日本書紀は明確に記述する。明治時代、天皇のもとに近代的中央集権国家を目指した政府は、この出来事を輝かしい史実として歴史教育の中で位置付けた。この歴史認識は戦後になっても変わることとはなかった。

昭和40年代以降、「大化改新 史論」の著者の門脇禎二氏たちの研究を契機に、大化改新の歴史は大幅に見直されてきた。平成19年2月12日に放映されたNHKスペシャル番組は、日本書紀の編纂者により歪められた史実を指摘しながら、大化改新の虚構を暴き、関係する人物の実像に迫ってみせて話題を呼んだ。

因みに入鹿は遣唐使留学僧旻の門下で第一と評された逸材。新興の唐も視野に入れた等距離外交を進めようとする国際感覚の持主と評価する。また、乙巳の変は、非蘇我系の中大兄と入鹿の推す蘇我氏系の古人大兄皇子との皇位に絡む権力闘争というのが実体だとする。(谷口雅一「NHKスペシャル大化改新 隠された真相」)

斬殺される間際に、皇極天皇の足元に伏した入鹿は無実を訴え「臣罪を知らず。乞う垂審察へ」と訴えた、と日本書紀は述べる。

地元に残る説話など

＊飛鳥寺の入鹿の首塚 故なく殺された入鹿の首が、正当な理由を聞くまでは納得できないと、中大兄と中臣鎌足を追いかける。恐れをなした二人は多武峰の麓のモーコンの森に隠れた。二人を探して首は高見山まで飛んで行くが、日も暮れてきたので自分の邸へ帰る途中に力尽きて飛鳥寺の前に落ちた。この首塚が西門の前にある五輪塔だという。この場所は、近頃パワースポットとして若い女性に人気があるようで首塚には花が絶えない。

＊蘇我氏の本拠地の橿原市曾我町の伊勢街道には、ここで首が落ちたという「首落橋」と、そばに「オッタ屋」という屋号の家が残る。

＊入鹿神社は、曾我町にある宗我坐宗我都比古神社の隣の小綱（しょうこ）町にある。この辺りは昔からの入鹿最前で、戦前蘇我氏の逆賊呼ばわりに肩身の狭い思いをしてきた。中臣鎌足は入鹿を殺した許し難い相手であり、地元では多武峰とは縁組しない、談山神社へ行くと腹をこわすなどの言い伝えがあるという。



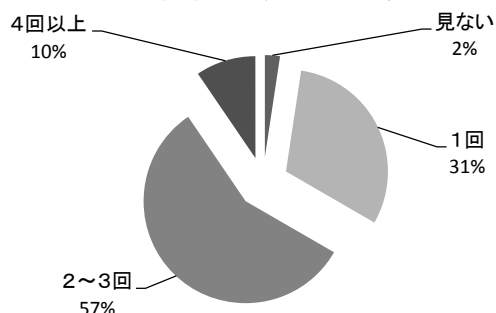
近頃の歴史ブームの中で、歴史上の人物への関心が高まり、見直される例も多く、ロマンを掻き立ててくれる。大和の歴史には、葛城円大臣、山背大兄王、有間皇子、大津皇子、長屋王、井上内親王などの悲劇の主がいる。正史の裏に見え隠れする彼等の姿を手探りしながら、歩いてみたい気がしているこの頃である。

▲入鹿神社（橿原市小綱町）

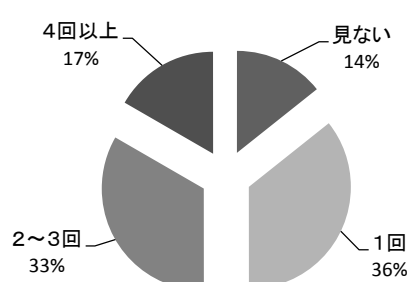
会報誌、ホームページ・アンケート(集計結果):回答数 42

見ない:HPは見る事が出来るが、会報誌を見るから不要

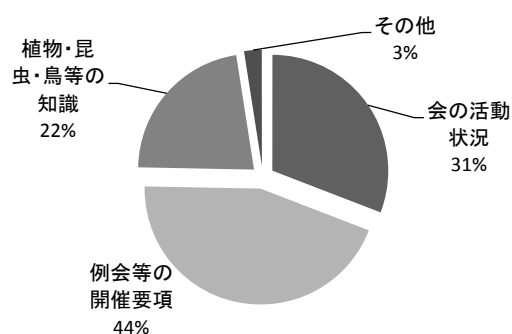
会報誌を見る回数



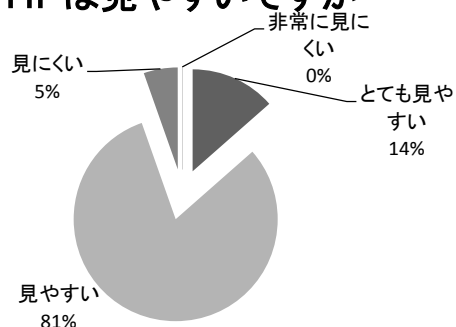
HPを見る回数



会報誌を見る場合

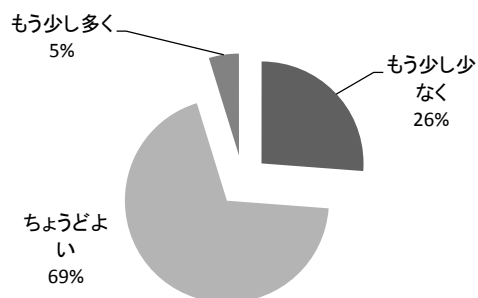


HPは見やすいですか

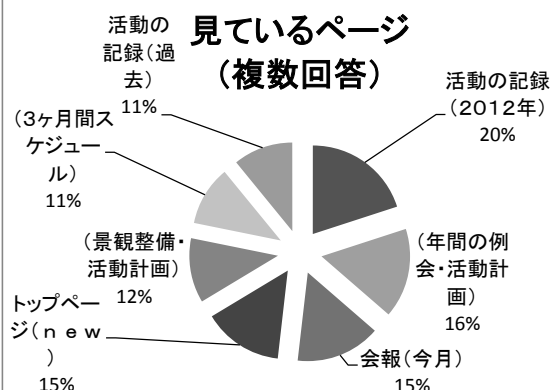


見ているページ(複数回答)139件から上位7項目をグラフ化した

ページ数

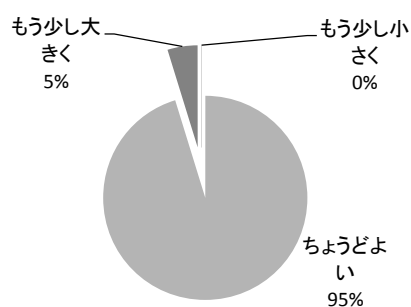


見ているページ(複数回答)

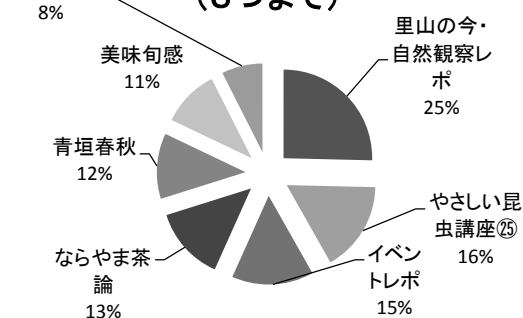


面白かった記事(3つまで)95件から上位7項目をグラフ化した

文字の大きさ



面白かった記事(3つまで)



ならやま景観整備 & 情報BOX

♪ 活動予定日 ♪



2月	7 (木)、14 (木)、21 (木) 28 (木)
3月	7 (木)、14 (木)、21 (木) 28 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の
南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時



2月7日

- <里山Gr> ・コナラの玉切り
・薪小屋の製作、薪割り
・里山林維持管理作業
- <農園Gr> ・春作野菜畑整備、堆肥作り
- <景観Gr> ・第5地区草刈り、整備
・ならやま池の泥除去と池整備
・アヤメ刈取りと寒肥、春花畝立て

2月14日

- <里山Gr> ・笹刈、杉の木の間伐、整理
・薪小屋の製作、薪割り
・里山林維持管理作業
- <農園Gr> ・春作野菜畑整備、堆肥作り
- <景観Gr> ・第5地区草刈り、整備
・ならやま池の池整備
・ビオトープ地の草取りと
シラン移植

2月21日

- <里山 Gr> ・2月14日に同じ
- <農園 Gr> ・春作野菜畑整備、堆肥作り
- <景観 Gr> ・第5地区草刈り、整備

アクセス

- ① J R平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：23発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：33発J R奈良駅行き（平日）

※ ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは
各自ご持参下さい。

- ◆ 連絡先：木村 裕



- ・ならやま池の水入れ
- ・パンジー草取りと移植（40株）施肥
- ・草取り

2月28日

- <里山Gr> ・2月14日に同じ
- <農園Gr> ・春作野菜畑整備、堆肥作り
- <景観Gr> ・第5地区草刈り、整備
・ならやま池の水生生物調査
・東池の水路整備
・秋明菊の移植、
ヒオウギ水仙の抜き取り
・草取り



行 事 案 内



※2月例会 榎原神宮探鳥会



日 程：2月26日(火) 9:00

集合場所：榎原神宮前駅・中央改札口

天 気：小雨決行。機関紙最後の頁の【申し合わせ事項】参照。迷う方は当日朝担当者にお問い合わせ下さい。

担 当：勝田

小田

持 ち 物：弁当・飲み物・あれば双眼鏡・雨及び寒さ対策

1/15、担当者で下見をしましたがかも(小鳥も)が少なく感じました。コースは再考したいと思いますので、ここでは省略します。

※自然観察会のご案内

(奈良市鴻池運動公園内
「万葉の苑」)



担当 自然教室チーム

冬、葉を落として寒そうに見える木も、よく見れば小さな花芽や葉芽をつけて春の準備をしています。葉が無いこの時期は樹形がはっきりし、木の特徴を知ることができそうです。ひょっとして、花や実をつけた木に出会えるかもしれません。万葉集に詠われた樹木を観察しながらゆっくり歩いて見ませんか。ネイチャーゲームを楽しんで見ませんか。自然に関心のある方なら、どなたでも楽しんでいただけたと思います。自然教室チームのスタッフはもちろん、多くの方にご参加いただきたくご案内いたします。

○日 時：2月19日(火)10時~12時30分

○場 所：奈良市鴻池運動公園内「万葉の苑」

○集合場所と集合時刻：鴻池運動公園

第1駐車場付近 10時

○雨天の時：前日午後7時前の天気予報で

60%の雨予報の時は中止

○持参するもの：メモ、筆記用具、お茶等

あれば、ルーペ、図鑑(必要な方は弁当)

○アクセス：車の方 駐車場有り

バスの方は、右記のとおり



近鉄奈良から高の原方面行き 9時23分又は53分

JR奈良から高の原方面行き 9時20分又は50分

市営球場前下車 バスの進行方向に向かって

1つ目の信号を右折すぐ

○準備の都合上 参加希望者は、2月12日までに
ご連絡ください。 連絡先 平岡久美

3月例会予告

「早春の山の辺の道に神話の故郷を訪ねる」



記紀にも名前が出てくる「山の辺の道」には、日本最古の古墳や古社寺、遺跡が点在し、歴史や文化の「すべての始まり」が集まっています。

今回は、古代もっとも神聖視された三輪山とその周辺の古社寺と、大和最古の柳本古墳群のいくつかを訪ねます。早春の自然をゆっくり楽しみながら、歴史や伝承、祭祀文化などの古代ロマンに浸ってみませんか。

行程は、約8キロ平坦な道ばかりです。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

実施要領

日時：3月26日(火)9:40

集合時間：9:40 JR三輪駅前

予定コース(変更の可能性あります)

JR三輪駅⇒大神神社⇒狭井神社⇒玄賓庵⇒

檜原神社⇒長岳寺⇒西殿塚古墳⇒大和神社⇒

JR長柄駅 予定 3時40分

3月例会担当 歴史文化クラブ 川井・杉本・古川

新入会員歓迎会予告

日時：平成25年3月21日(木)

場所：ならやまベースキャンプ

昨年年度途中で入会された方も歓迎いたします。奮ってご参加ください。



ならやまへ来ませんか！

ならやまではいろいろな活動を行っていますが、すべて自主的な活動で、強制されたものではありません。自分の体力に合わせ、マイペースの活動で、難しいことは何もあります。当会にせっかく入会されたのですから、ぜひ一度参加してください。お手当ては出ませんが、大勢の仲間が活動を楽しんでいます。中に入ってしまうばいたって居心地のよいところです。

初めての方は、「なんとなく入りにくい」

「知らないひとばかり」などと尻込みしがちですが、思い切って見学するつもりで来てください。メンバーの一人を捕まえて「初めて来た」と言っていれば幹事まで案内してもらえます。

来られるときの服装は汚れても差し支えない作業ができる服装をお願いします。決して三つ揃いなど来ないようにお願いします。持ち物は弁当、お箸、お茶、お椀、コップです。

3月21日(木)の活動日は新入会員歓迎会で、新入者がやって来ます。初めての方でも来易いと思いますので、ぜひおいでください。

来られるときの服装は汚れても差し支えない作業ができる服装をお願いします。決して三つ揃いなど来ないようにお願いします。持ち物は弁当、お箸、お茶、お椀、コップです。

来られるときの服装は汚れても差し支えない作業ができる服装をお願いします。決して三つ揃いなど来ないようにお願いします。持ち物は弁当、お箸、お茶、お椀、コップです。

3月21日(木)の活動日は新入会員歓迎会で、新入者がやって来ます。初めての方でも来易いと思いますので、ぜひおいでください。



3月イベント予告

《やってみよう!! いたけつくり!》

実施日時：平成25年3月16日(土)10時~15時

(雨天の場合は中止、順延はしない。)

(前日19時前のNHKの天気予報で、午前中の降水確率60%以上の場合は中止)

実施場所：ならやま

里山林およびベースキャンプ

募集要領：奈良市公報「しみんだより」に掲載

および近隣小学校へのチラシ配布による募集

募集人員：小学生30名(別途同伴保護者20名を想定)

募集期間：3月1日(金)~3月8日(金)



